



パラオだより

第5号

ヤシの葉を編みました



右に書いているサクスギビングデーの準備のため、学校の先生方全員で観客席用のテントを組み立て、日差し対策のため、編んだヤシの葉をテントの側面に貼り付けました。

写真の通り、葉を二枚ごとに交互に重ねていくのが編み方のポイントですが、同じ方法でカゴなどを作ることできます。もし近くにヤシの葉っぱがあるならぜひ作ってみてください。

地域と文化

村で初カヌー

毎週日曜日は、ホストファミリーと一緒に村の教会に礼拝に行っているのですが、教会の裏には川が流れており、豊かなマングローブ林が広がっています。アルモノグイ小学校の元体育の先生のカヌーがそこに繋がれていました。



そこで、その先生に交渉しカヌーを一日借りて、川とマングローブ林を探検することにしました。フニがいるから気を付けてと言われていたので、おっかなびっくりカヌーをこいで川をのぼっていきます。すると、水中に何かが沈んでいるのが見えました。よくわかりませんが、飛行機のパーツのように見えました。まだまだ村にはたくさんのナゾが残されています。

サンクスギビングデー

11月23日、そう、筒井先生のバースデーですね。この日はサンクスギビングデーというビッグイベントが学校で催されました。サンクスギビングデーとは、感謝祭のことです。アメリカの祭日ですが、パラオに取り入れられたのでした。子ども達が、保護者や先生方に日ごろの感謝の気持ちを書いた手紙を読み上げた後、パラオのおいしい伝統料理を紹介し合い、実食する時間がありました。初めて見る料理もたくさんあり、勉強になったのと同時にお腹も大満足な一日でした。



Q&Aコーナー

●パラオと日本はどのくらい離れていますか(Kさん)
 現在、日本からパラオへ直接行ける飛行機の便は存在しません。例えば、パラオからグアムという国を経由して日本へ向かう方法がありますが、7時間はかかります。日本とパラオは3000kmくらいしか離れていないので、直行便があったころは4時間半で着いていたようです。復活してほしい！



パラオ豆ちしき

パラオのお土産としてよく選ばれる左の写真のようなものがあります。木の板に、パラオの伝説を彫り込んだものですが、実はこの技術は「土方久功(ひじかたひさかつ)」さんという日本人が伝えたものなのです。